

美術科 学習指導案

日 時 平成 17 年 9 月 27 日 (火) 5 校時
学 級 1 年 5 組 (男子 18 名 女子 19 名 計 37 名)
場 所 美術室
授業者 村澤 梨沙

1 題材名 「見ることのすばらしさ」 (絵、日文)

2 題材について

(1) 教材観

学習指導要領では、1 学年の表現の目標について、「造形的なよさや美しさを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。」と定めている。本題材ではこの目標に基づき、ものをじっくり観察し、新鮮な発見と驚きから基礎的な描写力を身に付けたり、そのもののもつ美しさや雰囲気を工夫して表す態度を身に付けることをねらいとしている。

生徒は中学校に入学してから、本格的に絵画に取り組むのは初めてである。新鮮な気持ちで興味・関心をもって取り組める題材である反面、表現のつまずきから絵画制作に対して苦手意識をもってしまいう可能性もある。

本題材では、描かせる対象として、綿花と木の実を設定した。綿製品の原料である綿花は生徒も関心をもちやすく、様々な発見があると予想される。また、木の実は球体に近い形であり、形のとらえかたや明暗の段階的な変化がわかりやすい。さらに、堅い、やわらかい、ざらざらしているといった質感の表現を工夫できるという点から、基礎的な描写力を身に付けるという本題材のねらいに適していると考えられる。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒の学習態度はおおむね意欲的である。1 学期は色彩の基本とレタリングを中心に学習したが、積極的に発言するなど興味・関心をもって取り組んでいた。参考作品や、友だちの作品のよさを感じ取り、自分の制作に生かしていこうとする態度も見られた。

しかし、具体的に何がどうよいか、じっくりと観察したり考えたりすることが少ない生徒もいる。作品や手本、描く対象となるものを自覚的に「見る」姿勢が身に付いていない生徒は、思い込みで制作を進めてしまう傾向にある。また、色鉛筆を使って制作した空想画では、「作品の完成イメージはあっても、それをどう表現していいかわからない」という感想が多かった。技能の面では、鉛筆の使う際の濃淡や強弱の表現がやや単調である。表現上のつまずきがあると、意欲を失ってしまい、せっかくの発想が生かされないという場面も何度かあった。

一方で、生徒は、掲示してある作品や鑑賞で取り扱った作品に対して高い関心をもっている。特に、立体的な表現や写実的な表現の作品に対する感嘆の言葉をよく耳にする。このことを意欲付けとして、まずはものをしっかりと「見る」という姿勢を深め育てていきたい。さらに、「見る」ことによって得られる発見の喜びや感動を重視しつつ、絵画表現の基礎的な技能を身に付けさせたいと考える。

(3) 基礎・基本の定着

本題材における基礎・基本は、「ものの見方・感じ方を深めること」、「形・色(明暗)で表す感覚や基礎的技能を身に付けること」、「創意工夫して、よりよく表すこと」とであるととらえる。

まず、自覚的に「見る」という姿勢を育てるため、対象を観察する時間を十分にとりたい。また、参考作品としては、写実的リアリズムの作品を挙げ、徹底的に「見る」ことによってどれほどの迫力を込められるかを実感させたい。また、描き進めていく中で、形のとらえ方や明暗の表し方など必要な技能を提示していくが、その際、まず簡単な課題をプリント等で実践させ、それを発展させて作品に生かせるよう促したい。制作全体を通して、「見る」ことによって得た発見や驚きは何だったのか、生徒各自の体験を内省させ、その気持ちを作品に込めて表現するように指導する。

本題材の基礎・基本を定着させるため、学習課題の確認と振り返りを丁寧に行い、見通しと反省をもつことを習慣付けたい。

3 題材の目標

- (1) 自然物のなかにある美しさや面白さを発見し関心を持ち、その内容を表現することに対して意欲的に制作に取り組む態度を育てる
- (2) 観察の方法を工夫し特徴を捉え、存在感や雰囲気を表現するための構想を練ることができる
- (3) 対象のもつよさを創造的に表現する技能を培う
- (4) 作品を深く味わい、表現の工夫やよさを感じ取れる力を育てる

4 教材の評価規準と評価計画・指導計画（6時間扱い 5/6時間）

時	評価規準	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	指導目標	(1) 自然物の形や材質の面白さに気づき、その特徴を注意深く観察しようとする (2) 気持ちを込めて主体的に表現しようとする (3) 友だちの作品のよさを積極的に探し、認めようとする【鑑】	(1) 形の特徴を見つけ、画面に効果的に取り入れることができる (2) 明暗の段階的な変化をとることができる (3) 表現意図に合った技法を選ぶことができる	(1) 対象をよく観察し、特徴をとらえたスケッチをすることができる (2) 鉛筆の使い方を工夫して立体感や質感を表現することができる	(1) 参考作品のよさや美しさを感じ取ることができる (2) 友だちの作品を深く味わい、表現の工夫やとらえ方がわかる
1	単元の学習内容を把握し、参考作品やモチーフを自覚的に「見る」ことによって発見や感動の喜びを体験する	(1)			(1)
2	モチーフの形の特徴と美しさを見つけ、視点や構図を工夫して画面に取り入れる（スケッチ） 鉛筆の使い方によって様々な表現ができる	(1) (2)	(1)	(1)	
3	モチーフを単純な形にあてはめて全体の形をとらえる 大まかな明暗をつける	(1) (2)	(1) (2)	(1) (2)	
4	画面全体のバランスを考えて、明暗を段階的に表すことができる	(1) (2)		(2)	
5 本時	鉛筆の使い方を工夫してモチーフの質感を表すことができる	(1) (2)	(3)	(2)	
6	モチーフからの発見や感動をどのように作品で表したかを作品とともに発表する 友だちの作品のよさを感じ取る	(3)			(2)

5 本時の計画

(1) 目標

鉛筆の使い方を工夫して、モチーフの質感を表すことができる

(2) 指導の構想

本時は、全体の形の表現から細部の表現に移行し、全体のまとまりを考えながら存在感や雰囲気を追及し、完成に近づけていく段階である。存在感や雰囲気を出すために鉛筆のタッチの効果を生かして質感の表現をしていく。参考作品として、質感をよく表しているものを提示し、どんな工夫がされているかを話し合い、質感の表現の重要さに気付かせたい。

そして、事前に練習した何種類かの鉛筆のタッチの中で、モチーフの持つ質感を表すにはどれを使えばいいのか生徒に考えさせ、選ばせて、主体的に表現するよう促す。その際、何となくモチーフを描き写すとか、技巧のみを追いかけるといった姿勢は極力避けたい。そのため、自分はモチーフからどんな発見をしたのか、どうして感動したのかをもう一度確認する時間を設定した。

この授業を通して、発見で得た感動の気持ちを表現できる技能を身に付けさせたい。そして、自分の気持ちをぶつけて制作することの楽しさや大切さを感じてほしいと考えている。

(3) 具体の評価規準

	具体の評価規準		C (努力を要する生徒への手立て)
	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	
関心・意欲・態度	(1) ねばり強くいろいろな角度からの観察を試し、積極的にその面白さや特徴をとらえようとしている (2) 自分が発見から得た感動を的確に作品に表そうと、意欲的に制作に取り組もうとしている	(1) モチーフの材質をよく観察し、自分なりにその面白さや特徴をとらえようとしている (2) 自分が発見から得た感動を作品に表そうとしている。	(1) 注目する点をいくつか挙げ、観察を促す (2) どんなところに感動したか聞き、それを表すためのヒントを示す
発想や構想の能力	(3) 鉛筆のタッチを使い分け、その特徴を生かし、的確に表現できる	(3) 鉛筆のタッチを使い分けて表現できる	(3) どのように表現したいか整理させて、いくつかのタッチから選択するよう促す
創造的な技能	(2) 鉛筆の使い方を工夫して、表現技法にこだわりをもち質感や立体感を表現することができる	(2) 鉛筆の使い方を工夫して、質感や立体感を表現しようとする	(2) 事前に渡したプリントを使い、タッチの特徴や注意する点などを復習する

(4) 展開 Step 2

	学習内容	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点・方法
導入 10分	1 既習事項の確認	1 観察した時、どのような発見があったか思い出す。その発見が作品に表現されているか考える。参考作品を見て、どんなところが工夫されているか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「質感」の意味を確認し、板書する ・参考作品は、質感が表現できている作品を選ぶ ・班ごとに話し合ったことを発表する 	
	2 学習課題の把握	2 学習課題を把握する		
学習課題：鉛筆の使い方を工夫して質感を表そう				
展開 30分	3 課題解決の見通し	3 「ざらざら」、「やわらかい」等の質感はどうやって表せばいいか予想する 予想される生徒の反応 ・タッチの方向 ・タッチの強弱 ・タッチの長短	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布した鉛筆のいろいろなタッチについてのプリントを見せて予想を促す ・それぞれのタッチで気をつける点を確認し、板書する 	
	4 課題の追究	4 タッチに気を付け、質感の表現を追究する	<p>< Cの生徒への手立て ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・注目する点をいくつか挙げ、観察を促す 関心(1) ・どんなところに感動したか聞き、それを表すためのヒントを示す 関心(2) ・どのように表現したいか整理させて、いくつかのタッチから選択するよう促す 発想(3) ・事前に渡したプリントを使い、タッチの特徴や注意する点などを復習する 技能(2) 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>(1) 自然物の形や材質の面白さに気づき、その特徴を注意深く観察しようとする(観察)</p> <p>(2) 気持ちを込めて主体的に表現しようとする(観察、作品)</p>
	5 課題の解決	5 自分なりの質感の表現ができたか確認する		<p>【発想や構想の能力】</p> <p>(3) 表現意図に合った技法を選ぶことができる(観察、作品)</p>
終結 10分	6 学習事項の明確化	6 どのようにタッチを使い分けたか、それによってどんな効果があったか確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・質感の表現が工夫されている作品を提示してよいところを紹介する ・授業の感想を何人かに発表させる 	<p>【創造的な技能】</p> <p>(2) 鉛筆の使い方を工夫して立体感や質感を表現することができる(観察、作品)</p>
	7 学習評価	7 自己評価カードに記入する	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードは事前に配布しておく 	
	8 次回の学習内容の確認	8 次回の学習内容を説明する	<ul style="list-style-type: none"> ・次回学習への意欲付けとなるようにする 	